

大正五年十二月

海邦丸

三

外務省

3-2245

0151

汽船海邦丸搜索歎願書

當會社所有汽船海邦丸一號化敷四一四八七登簿化敷三三四
右白屋神戸三港ニ於テ雜貨ヲ滿載シ門司ニ
八八七化ヲ積入レ去ル十月六日正午英領蘭貢ニ
テ然レ今午後一時二十分六連島沖通過ノ報
ヲ二十六日ヲ經過シタモ杳トシテ何等ノ消息ナシ

門司宗太郎

神戸市海通二丁目電話三三三三番
勝田商會
自宅神戸市東區旗塚通二丁目四番地
電話三三六一六二七番

本船目下神戸市京町十番地三井物産株式會社船舶部ニ備
船ニシテ同店ハ今般橫濱名古屋及神戶三港ニ於テ日本郵船
株式會社ノ積荷ヲ積載シタルモノナリ

本船ノ速力ハ平均九浬ニシテ今日マデノ成績ニミレバ門司蘭貢間、
航海ノ費入日數貳拾日ニシテ雇トモ貳拾五日間ニ蘭貢到
達スルハ可カラザルモノナリ不構出帆後三十六日ヲ經過シタル今日ニ至ル

神戸勝田商會

元本船ヲ何等ノ報告ニ接セザルハ勿論蘭貢ニ於テ代理店其他
新嘉坡香港台灣各所問合セタモ今本船ノ所在ニ就テ何等ノ
消息ヲ誠ニ憂慮ニ堪ハズ次第ナリ船体ハ兎ニ角ニ之ニ糸組ル
四拾九名船員ノ所在ヲ確シテ為ラ應急救助ノ方法ヲ構ヒタキモ當
會社ニ於テハ唯各地ノ取手先ノ消息ヲ問ヒ合セタリ他ニ何等ノ手
段ヲ採ル能ハズ只當本船搜索方ニ就テ貴省官廳及内南洋支那
沿岸及南洋各地領事官ニ本船ノ消息又ハ漂流知事之
テ手照照會ヲ多ク事ヲ懇願ス

大正五年十月十日

大連市山縣通百五拾番地

勝田汽船會社 代理

東京市神田區富山町七番地 沖一三三九

汽船海邦丸搜索歎願書

當會社所有汽船海邦丸(噸數四一四八噸)登簿噸數三三四
噸)先般橫濱名古屋神戸三港に於て雜貨ヲ滿載シ明司ニ
寄港シ禁料炭八百噸ヲ積入シ去月十六日正午英領港關員
向々明司ヨリ出帆シタリ然レ今日午後一時二十分六連島沖通過報
アリシ以未本日ミテ三十六日ヲ經過シタレモ香トシテ何等消息ナシ
本船目下神戸市京町十番地三井物産株式會社船舶部ニ備
船ニシテ同店ハ今般橫濱名古屋及び神戸三港に於テ日本郵船
株式會社ヲ積荷ヲ積載シタルモノナリ

本船、速力平均九哩ニシテ今日マデ、成績ニシテハ明司薩貢間、
航海ニ費スル日數貳拾日ニシテ雇リトモ貳拾五日間ニ薩貢到
着セザル可カラザル等ナシ不均出帆後三十六日ヲ經過シタル今日ニ至ル
大正五年十一月廿三日 記 第一號 勝田商會

神戶勝田商會

元本船ヲ何等報告ニ接セザルハ勿論薩貢に於テハ代理店其他
新嘉坡香港台灣各所問合セタレモ今本船、所在ニ就テ何等、
消息ナク誠ニ憂慮ニ堪ヘズ次第ナリ船体ハ兎ニ角ニ之ニ乗組ル
四拾九名、船員、女ヲ含メテ之ニ應急救助、方法ヲ構ヒタキモ當
會社ニ於テハ唯各地、取テ先(消息)問合セタルヨリ他、何等手
段ヲ採ル能ハズ只當本船搜索方、就テ貴省管轄区内南支那
沿岸及南洋各地、領事官ニ本船、消息又ニ漂流初等之
事ヲ照會スル事ヲ懇願ス

大正五年十月十日

大連市山縣通百五拾番地

勝田汽船會社 經理

東京市神田區富山町七番地 沖一三三九

鮫川常三

少子中州書大書年記

外務省

郷中

尚本件三編五編考書相原置申矣

一汽船海邦丸明細書

一汽船海邦丸重組員名簿

一汽船海邦丸特微書

神戸勝田商會

海邦丸ノ特徴

構造ハ普通ボート型ニシテ特徴トスル所ハ本船ノ
檣ノ高サト烟突ノ高サト同一ナルアリ而シテ烟突ノ
標章ハ白色ノ三本筋ナリ

大正五年三月廿三日記録第二部接受

神戸勝田商會

KATSUDA SHOKAI,
KOBE, JAPAN.

Telegraphic Address:
"KATSUDA," KOBE.
Codes Used:
A. I.
A.B.C. 5th Edition
Western Union
Scott's Code, 10th Ed.
and Private Codes.

汽船海邦丸明細書

神戸市海部通二丁目六番地
勝田商會
長電話(本局)千三百貳號
長電話(本局)三百貳拾貳號

Particulars of the S.S. "Kaiho Maru"

大正五年六月一日

No.

Kobe, 191

大正五年五月廿三日記録第二部接録第一号
Particulars are given as carefully as possible, but not guaranteed.

国籍 Nationality 大連日本
 保険階級 Class 100 A
 構造 How rigged 211-1 船質 Material 鋼
 製造年月 When Built 西曆一千九百十四年
 製造場所 Where Built 英國ニューカッスル
 製造者 Builders 11. ニューカッスル
 總噸數 Register gross tonnage 4,159 噸
 淨噸數 Register nett tonnage 2,590 噸
 積貨立方容積 Cubic cargo capacity 302,600 立方呎
 重量積載力(燃料炭庫共) DEAD WEIGHT (Including Bunkers) 6,436 噸
 常備炭庫 Permanent 510 噸
 長さ Length 380 呎
 幅 Breadth 45 呎 2 吋
 深さ Depth 30 呎
 重量(燃料炭庫共)満載平均吃水 MEAN DRAFT loaded 24 呎 6 吋
 空船平均吃水 Mean draft in ballast 8 呎 6 吋
 水艙の有無及位置 Water ballast and where situated 115 2 噸
 燃料炭消費量(24 時間) CONSUMPTION OF COAL FOR 24 HOURS 30 噸
 速力(時間) SPEED PER HOUR 9.5-12 海里
 甲板の種類及其材料 Deck plan and material 鋼
 中甲板の有無及其材料 Tween deck laid? and material 鋼
 中甲板の高さ Height of tween deck 7 呎 6 吋
 船艙の數 No. of holds 4 個
 艙口の數 No. of hatches 5 個
 艙口の大きさ Size of hatches 16x12' 24x16' 10x7' 6" 20x12' 20x12'
 艙門の數及大きさ No. and size of side-ports 4
 支水艙の數 No. of bulk-heads 6 個
 一等客室 1 室 二等客室 4 室 三等客室 1 室
 Passengers, 1st class 1 2nd class 4 3rd class 1

機関 ENGINES.
 汽機の種類 Nature of Engine 三聯成
 汽機の位置 Where placed 中
 製造年月 When constructed 西曆一千九百十四年
 製造所 Where constructed 英國ニューカッスル
 製造者 By whom 11. ニューカッスル
 公稱馬力 Nominal horse power 2,100 H.P.
 實馬力 Effective horse power 1,800 馬力
 汽筒の直径 Diameter of cylinder 26" 43" 69"
 ストロークの長さ Length of stroke 45"
 スクリューの直径 Diameter of Screw 17' 6"
 汽鍋 BOILERS.
 汽鍋の種類及數 Nature and No. of boilers 筒形 両口 2 個
 製造年月 When constructed 西曆一千九百十四年
 製造所 Where constructed 英國ニューカッスル
 製造者 Makers 11. ニューカッスル
 就業汽壓 Working pressure 100 封度
 受熱面 Heating surface 6,214 平方呎
 火床面 Grate surface 148 平方呎
 焚口の数 No. of Furnaces 12 個
 ドンキー汽機 Donkey engine 7 個
 ドンキー汽鍋 Donkey boiler 7 個 100 封度
 汽力ウィンチの數 No. of steam winches 7 室
 汽力操舵機 Steam steering gear 7 室
 汽力ウィンドラス Steam windlass 7 室
 電燈の有無 Electric light 有
 何時何港ニ受渡出來ルヤ Delivery, when and where
 賃船料一月ニ付 Charterage per month
 最近検査日 Last special survey
 賣買代價 PRICE FOR SALE

記 事 REMARKS

本船は 5 月 24 日 西 港 出 航 後 諸 君 の 設備 あり

古事考調

汽船海邦丸乗組員名簿

大正五年三月廿三日記録第二部接収

神戸

勝田商會

3-2245

0167

| | | | | | | | | | |
|----|-----|----|------|----|----|----|----|----|----|
| 職名 | 甲收部 | 姓名 | 小林清七 | 船長 | 運警 | 舟寄 | 舟寄 | 舟寄 | 舟寄 |
| 職名 | 甲收部 | 姓名 | 小林清七 | 船長 | 運警 | 舟寄 | 舟寄 | 舟寄 | 舟寄 |
| 職名 | 甲收部 | 姓名 | 小林清七 | 船長 | 運警 | 舟寄 | 舟寄 | 舟寄 | 舟寄 |
| 職名 | 甲收部 | 姓名 | 小林清七 | 船長 | 運警 | 舟寄 | 舟寄 | 舟寄 | 舟寄 |
| 職名 | 甲收部 | 姓名 | 小林清七 | 船長 | 運警 | 舟寄 | 舟寄 | 舟寄 | 舟寄 |
| 職名 | 甲收部 | 姓名 | 小林清七 | 船長 | 運警 | 舟寄 | 舟寄 | 舟寄 | 舟寄 |
| 職名 | 甲收部 | 姓名 | 小林清七 | 船長 | 運警 | 舟寄 | 舟寄 | 舟寄 | 舟寄 |
| 職名 | 甲收部 | 姓名 | 小林清七 | 船長 | 運警 | 舟寄 | 舟寄 | 舟寄 | 舟寄 |
| 職名 | 甲收部 | 姓名 | 小林清七 | 船長 | 運警 | 舟寄 | 舟寄 | 舟寄 | 舟寄 |
| 職名 | 甲收部 | 姓名 | 小林清七 | 船長 | 運警 | 舟寄 | 舟寄 | 舟寄 | 舟寄 |

3-2245

0168

| | | 月 | | 日 | | 會 | |
|----|------|------|---|---|---|---|---|
| 生徒 | 香山次夫 | 以爲無家 | 能 | 能 | 能 | 能 | 能 |
| 水長 | 香山次夫 | 以爲無家 | 能 | 能 | 能 | 能 | 能 |
| 共工 | 香山次夫 | 以爲無家 | 能 | 能 | 能 | 能 | 能 |
| 水長 | 香山次夫 | 以爲無家 | 能 | 能 | 能 | 能 | 能 |
| 今 | 水間次夫 | 以爲無家 | 能 | 能 | 能 | 能 | 能 |

3-2245

0169

| | | | |
|----|------|---------------|-----------------------------|
| 船木 | 山本三郎 | 以治七年 三月廿五日 | 香川村十直 郡出田村 大富橋 甲六二 |
| 左 | 遠山佛一 | 以治七年 三月廿五日 | 愛媛縣北宇 郡宇字 初見橋 乙六 |
| 藤原 | 山崎三三 | 以治七年 三月廿五日 | 福岡縣宇治 郡大津 村 乙五七 |
| 水夫 | 糸道三三 | 以治七年 三月廿五日 | 岡山縣岡 郡岡岡 村 乙六一 |
| 仁 | 高木三三 | 以治七年 三月廿五日 | 岐阜縣 郡 乙七 |
| 水夫 | 山崎三三 | 以治七年 三月廿五日 | 長崎縣 郡 乙二 |
| 仁 | 山崎三三 | 以治七年 三月廿五日 | 岡山縣 郡 乙二 |
| 左 | 山崎三三 | 以治七年 三月廿五日 | 岡山縣 郡 乙二 |
| 左 | 山崎三三 | 以治七年 三月廿五日 | 岡山縣 郡 乙二 |
| 左 | 山崎三三 | 以治七年 三月廿五日 | 岡山縣 郡 乙二 |

神戸

勝田商會

| 職名 | | 姓名 | | 生年月日 | | 備考 | |
|----|----|----|----|-------|--|-----|-----|
| 振長 | 横山 | 三郎 | 三郎 | 三月廿五日 | | 神戸市 | 神戸市 |
| 常務 | 森 | 三郎 | 三郎 | 八月廿五日 | | 神戸市 | 神戸市 |
| 常務 | 中野 | 三郎 | 三郎 | 八月廿五日 | | 神戸市 | 神戸市 |
| 常務 | 北野 | 三郎 | 三郎 | 九月廿五日 | | 神戸市 | 神戸市 |
| 常務 | 大石 | 三郎 | 三郎 | 八月廿五日 | | 神戸市 | 神戸市 |
| 常務 | 佐藤 | 三郎 | 三郎 | 八月廿五日 | | 神戸市 | 神戸市 |
| 常務 | 佐藤 | 三郎 | 三郎 | 八月廿五日 | | 神戸市 | 神戸市 |
| 常務 | 佐藤 | 三郎 | 三郎 | 八月廿五日 | | 神戸市 | 神戸市 |
| 常務 | 佐藤 | 三郎 | 三郎 | 八月廿五日 | | 神戸市 | 神戸市 |
| 常務 | 佐藤 | 三郎 | 三郎 | 八月廿五日 | | 神戸市 | 神戸市 |

神戸

勝田商會



| | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 左 | 左 | 左 | 左 | 尖 | 神戶 | 左 | 左 | 左 | 左 | 尖 |
| 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 | | 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 |
| 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 | | 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 |
| 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 | 勝田商會 | 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 |
| 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 | | 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 |
| 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 | | 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 |
| 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 | | 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 |
| 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 | | 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 |
| 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 | | 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 |
| 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 | | 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 | 藤原 |

3-2245

0172

| 職名 | 姓名 | 生年月日 | 職階 |
|-----|------|-------|------|
| 頭取 | 林田末吉 | 明治31年 | 元長尾村 |
| 二科 | 林田末吉 | 明治31年 | 元長尾村 |
| 三科 | 林田末吉 | 明治31年 | 元長尾村 |
| 四科 | 林田末吉 | 明治31年 | 元長尾村 |
| 五科 | 林田末吉 | 明治31年 | 元長尾村 |
| 六科 | 林田末吉 | 明治31年 | 元長尾村 |
| 七科 | 林田末吉 | 明治31年 | 元長尾村 |
| 八科 | 林田末吉 | 明治31年 | 元長尾村 |
| 九科 | 林田末吉 | 明治31年 | 元長尾村 |
| 十科 | 林田末吉 | 明治31年 | 元長尾村 |
| 十一科 | 林田末吉 | 明治31年 | 元長尾村 |
| 十二科 | 林田末吉 | 明治31年 | 元長尾村 |
| 十三科 | 林田末吉 | 明治31年 | 元長尾村 |
| 十四科 | 林田末吉 | 明治31年 | 元長尾村 |
| 十五科 | 林田末吉 | 明治31年 | 元長尾村 |
| 十六科 | 林田末吉 | 明治31年 | 元長尾村 |
| 十七科 | 林田末吉 | 明治31年 | 元長尾村 |
| 十八科 | 林田末吉 | 明治31年 | 元長尾村 |
| 十九科 | 林田末吉 | 明治31年 | 元長尾村 |
| 二十科 | 林田末吉 | 明治31年 | 元長尾村 |

神戸

勝田商會

3-2245

0174

邦海丸
無人島に坐礁す

●邦海丸 無人島に坐礁す
—行方不明なりし郵船會社の備貨物船—
去月十一日香港沖のブラタス島へ
乗員中十七名辛くも香港に到着す
行方不明なつた郵船會社の備貨物船の短艇に乗じて香港に向け同島を出發
邦海丸は十一月十一日香港沖約二百哩の深流中澳門沖に於て支那漁船に救助
のブラタス島を距る十里の東方に於てせられ十三日香港に到着せり乗員中
に上陸したるも同島は無人居りて食物タス島に残留し居れり高富地日本領事
なく野生の食物鳥等を食用にして生活は彼等の救助方法につき奔走しつゝあ
し居りしが船員八名は十二月四日二隻り十四日香港電報

大正十一年十一月十一日香港電報

外務省

文書課長 十五

大正五年三月廿三日 起草 午後

送第

號

主管 通商局長

主任

本時六子

電送第 二六六一 號平
五年二月十三日 發

依飛

電信案

第 門 第
類 第
項 第
號

大正五年三月廿三日 電報第一二部 接受

六七四号

大連市 德商 汽船 株式 有限 汽船 海

外務省

邦丸(汽船) 三三三三 船名 船主 船主 船主 船主
三本筋(汽船) 三月廿三日 船主 船主 船主 船主
多分今(汽船) 三月廿三日 船主 船主 船主 船主
今(汽船) 三月廿三日 船主 船主 船主 船主
右(汽船) 三月廿三日 船主 船主 船主 船主
左(汽船) 三月廿三日 船主 船主 船主 船主

電信課長 十五

大臣 〇八

香港長 大正五年十二月十日 〇八
若若若 〇八

次官 十

本野外務大臣 高橋總領事代理

政務

第三二三號

通商

音電 第四號 〇八 海邦九二等運轉手

人事

官崎音吉本十四日正午當館ニ出頭陳述スル

會計

コト左ノ如シ

文書

海邦九十一月十一日午前五時十五分アラタ

參政官

入(西澤島)東方十里ノ地点ニ坐礁數日後

副參政官

全員四十九名中大夫一名ボートニ避難ノ

際死亡シ十七名八十一月二十六日アラタ

大正五年十二月廿三日記録第二部接受

第五號
第五號
第五號
第五號

ニ上陸シ此ノ内八名ハ本月四日萬難ヲ排シ
香港ニ到着セシ目的ヲ以テ漂流中澳門沖
ニテ換船ノ為ニ救助セラレタリアラタス鳩
ニ格残シ九名ハ今尚小生存セシナラシモ
船中ニ残留セシ船長外三十名ハ或ハ死亡
セシナラシト疑ハル云々就テハ台湾總督府
ハモ本電ト同時ニ救助ヲ電請シ置キ又ルガ
貴方ニ於テモ可然御手配請フ

一〇〇八 平 香港長 大正五年十二月十四日 右二一五
右者着 〇一〇五九
本野外務大臣 高橋總領事代理

芽三二三院

貴電芽七四院。聞し海邦九二等運轉手
宮崎首吉本十四日正午當館ニ出頭陳述スル

海軍省
通信省

海邦九十一月十一日午前五時十五分アラ
ス(西澤島)東方十哩ノ地点ニ坐礁。數日後
全負四十九名中火夫一名ボートニ避難ノ
際死亡シ十七名ハ十一月二十六日アラヌ鳴

大正五年十二月廿三日記録第二部接受

ニ上陸シ此ノ内八名ハ本月四日萬難ヲ排シ
香港ニ到着セシ目的ヲ以テ漂流中澳門沖
ニテ破船ノ為ニ救助セラレタリ。アラヌ鳴
ニ残存シ九名ハ今尚ホ生存セシナランモ
船中ニ残留セシ船長外三十名ハ或ハ死亡
セシナラント疑ハル云々就テハ台湾總督府
ハ本電ト同時ニ救助方電請シ置ケタルガ
貴方ニ於テモ可然御手配請フ

電信課長 十五

一九一二年

香港 本年五月十五日 午前

大臣

次官 十五

政務

本野外務大臣

高橋總領事代理

通商

第三二四號

人事

會計

文書

參政官

副參政官

第16類
第15類
第14類
第13類
第12類
第11類
第10類
第9類
第8類
第7類
第6類
第5類
第4類
第3類
第2類
第1類

大正五年三月廿三日 記録第二部 陸受

本野外務大臣 高橋總領事代理
第三二四號
續前第三二二號。關於救助方ニ付在當地代理
店ヨリ英國官憲ニ交渉セル所下リタルモ官憲
ニ於テハ適當ノ適當ノ救助ノ手續ヲ
取計ヒ兼示居ル標本ナリ。就テハ貴方ニ於テ
勝手配膳ノ其、少少参考此法宛報ヲ得
タシ台湾ニ同標本報セリ

高橋總領事代理

電信課長

十九

大臣

一九四七

香港 大正五年十二月十五日 前四、四〇
本有者 十二月十六日 前九、四〇

次官

水野外務大臣

高橋總領事代理

主、政務

第三二五院

通商

海部九遭難者中昨日當地ニ来著セル者ノ氏

手一保

人事

名在ノ通

成事

會計

二等運轉士

宮崎 啓吉

第門第

文書

舵夫

Yamukaei Geitai

第類第

參政官

舵夫

山下 典三郎

副參政官

舵夫

Miyama Keisuke

水夫

大西 玉市

Omura Tametichi

大正五年三月十三日 記録第二部 渡部

2

水夫 Yamaji Seigo
 油差 Manabe Goro
 火工 Tomita Genkichi
 ノ八名ニシテプラマス嶋ニ上陸シタル者ハ
 横岡長 Yokoyama Michitaro
 一等松岡士 Nakagayari Soshino
 二等松岡士 Nakamura
 中森 外六名 (姓名不明)
 又海邦丸ニ残留セシ者ハ
 船長 Kobayashi Osakichi
 一等運轉士 Miyaji Keisichi

三等邊轉士
外二十八名(姓名不明)
Hagiwara Kaguro

3-2245/

0183

七四一〇
 香港 大正五年十二月十五日 四、四〇
 去者 十六日 九、四〇
 水野 務太郎 高橋 總領事代理

神田區宮山町七番地
 船積置貨備 仲立業 餘 江 商 店
 國電話神田壹貳玖九番

院 難者中昨日當地ニ來着セル者ノ氏

依頼者

海軍省 通信省
 舵夫 舵夫 舵夫
 水夫 水夫

宮崎 藤吉
 Miyazaki Mitsuyoshi
 山下 三郎
 Yamashita Sanjuro
 大西 至市
 Onishi Tamashichi

大正五年三月廿三日 記録第二部 接受

水夫 Yamaji Seigor
 油差 Manabe Tora
 大工 Tomita Genkichi
 ノ八名ニテララズニ上陸セル者
 機長 植山 道太郎
 一等機長 Yokoyama Michitaro
 二等機長 中林 七郎
 Nakabayashi Aichiro
 又海邦丸ニ殘留セル者
 中森 外六名 (姓名不明)
 Nakamura
 船長 Kotayama Asakichi
 一等運轉士 Miyaji Keisichi

一九四七
香港 大正五年十二月十五日
本邦外務大臣 高橋總領事代理

第三二五院

海邦九遭難者中昨日當地ニ來着セル者ノ氏
名左ノ通

依頼者

海軍省
通信省

- 二等運轉士 宮崎 茂吉 *Miyazaki Shigeaki*
- 舵夫 *Tomukaei Geitei*
- 舵夫 山下 善三郎 *Yamashita Yasunosuke*
- 舵夫 *Miyama Keisuke*
- 水夫 大西 玉市 *Onishi Tamichi*

大正五年十二月廿三日 記録第二部 接受

- 水夫 *Yamaji Seigo*
- 油差 *Manabe Tora*
- 火工 *Tomita Genkichi*
- ノ八名ニシテ トラタス嶋ニ上陸セル者ハ
- 機長 植山 道太郎 *Uekiyama Michitaro*
- 一等機長 中林 七郎 *Chokabayashi Shichiro*
- 二等機長 中森 外六名 (姓名不明) *Nakamori*
- 又海邦九遭難者ニ殘留セル者ハ
- 船長 *Kobayashi Osakichi*
- 一等運轉士 *Miyaji Keisaku*

三
崇
正
五
年

一九四七
年

香港農大正五年十二月十五日
本野外務大臣
高橋



第三二五院

海邦九遭難者中昨日當地ニ来
在在ノ通

二等運轉士

宮崎 茂吉

舵夫

Yamukai Yaiti

舵夫

山下 典三郎

舵夫

Miyama Keisuke

水夫

大西 玉市

Omura Tamichi

海軍省
通信省

依頼者

大正五年三月廿三日 記録第二部 接受

水夫

Yamaji Seigo

油差

Manabe Goro

大工

Tomita Genkichi

ノ八名ニシテプラタス鳩ニ上陸

概員長

植山 道太郎

一等概員士

Yokoyama Michitaro

二等概員士

中森 外六名 (姓名不明)

又海邦九、残留セシ者ハ

Nakamori

船長

Kobayashi Asakichi

一等運轉士

Miyagi Keisaku

3-2245

0187

三等邊轉士
外二十八名(姓名不明)
Hagiwara Kaguro

3-2245

0188

電信課長

十之七

大臣

多岐 七

次官

十之七

多岐 七
如右者 本署より有る者 拓内事務
中野 事務 高橋 事務 代理

政務

第三二六号

通商



如右者 海軍部より如左ニ於テ希助主スルテラハ海

人事

如左 遭難地へ軍艦ヲ派遣スベキ旨申出テアリタ

會計

ルニ既ニ我ガ軍艦派遣方手配済ニ由リ台湾民政

文書

如左 又全長官ニ於テ是別ニ救助船

準備中ナリト信セラルニ理由モアリ如左ニ差シタリ

必要ニシト考ヘラレタルニ依リソノ好意ヲ許シ當也

第 門 第 參 政 官
第 項 第 副 參 政 官

大正五年六月廿三日 記録第二部 接受

代理店トモ打々命セノ上ニ如辞退ニシテアリ

七
八
九
一〇
一

新橋 高橋 高橋
如右者 本局より有る者 新橋 高橋
中野分務所 高橋 高橋

第三二六号

如日当地海軍當局より如左ニ於テ希助を不レカラバ海
外に遭難地へ軍艦ヲ派遣スベキ旨申出デアリタ
ルニ既ニ我ガ軍艦派遣方ヲ配済シ由台湾民故
長官より電報アリ又全長官ニ於テ特別ニ救助船
準備中ナリト信ゼラル、程由モアリ為方ニ差シタリ
此等ニテ考ヘラレタルニ依リソノ好意ヲ謝シ當也

2
依頼者

大正五年六月廿三日記録第二部接受

代理店トモ打々合々ノ上ノ如辞退ニ至リ

3-2245

0190

第 第 第
項 類 門
第 第 第

大正五年

三月廿三日 郵傳部第二二號

汽船海邦丸救助願

當會社所有汽船海邦丸 豫行衛不明トナリ
搜索方歎願致立修復去月十一日香港沖約
二百哩、プラタス嶋ヲ距ル十哩、東方ニ於テ坐礁
ニ乗組員中十七名、プラタス嶋ニ上陸シタルモ同
嶋ニ無人嶋ニテ食物及レキヲ以テ内八名、十二月四日
一隻、短艇ヲ漂流的ニ航路ヲ求メ幸フシテ一昨
十三日香港ニ着ル旨本日判明致シ候而トテ
因嶋ニ残留者九名并ニ本船ニ止マル三十餘名、
目ニ非常ニ窮況ニ陥リ瀕死ノ状態ニ迫レルコト明
白ニテ甚々憂慮ニ堪ヘサル次第ニ有之矣聞此際
特別ノ商洽議ヲ以テ在香港帝國領事館ニ應
急ノ救助被成下取極奉懇願候也

大正五年十二月十九日

大連市山崎通百五十三号地

傍田汽船會社代理店

東京市神田區富山町七番地

船江常三

外務省

東京市神田區富山町七番地

大正五年

運船 眞島 及石貨 炭借 兼 立 仲 田 區 高 山 町 七 番 地
船 工 商 店
東京市神田區高神山町七番地

大正五年 年 月 日

大正五年

外務省
送

東京市神田區高神山町七番地

倭田汽船會社

大連市山縣通

大正五年十二月十日
急中救助被成下形様
特別、即詮議ヲ次テ在香港
白ニシテ甚々憂慮ニ堪ヘザル

目ニ非常ノ窮況ニ陥リ瀕
因嶋ニ残留者九名兼ニ木
十三日香港ニ着る迄音木日判

一隻ノ短艇ニ漂流的ニ航路
嶋ニ無人嶋ニテ食物ニ乏シキヲ以
ニ乗組員中十七名ハポラス
二百哩ノポラス嶋ヲ距ル半哩
搜索方歎願致シテ修命去日
當會社所有汽船海邦

汽船海邦丸救助

0192

3-2245

汽船海邦丸救助願

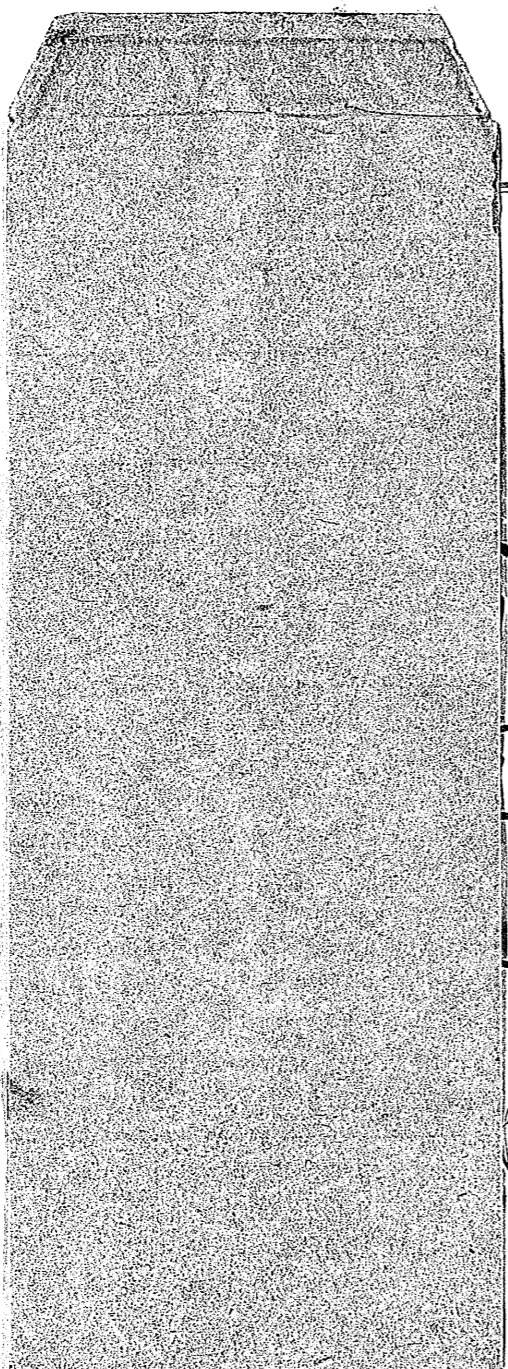
當會社所有汽船海邦丸 豫テ行衛不明トナリ
搜索方歎願致シ修復去月十一日香港沖約
二百哩、プラタス嶋ヲ距ル十哩、東方ニ於テ坐礁
シ乗組員中十七名ハプラタス嶋ニ上陸シタルモ同
嶋ニ無人嶋ニテ食物ニ乏シキヲ以テ内八名ハ十二月四日
一隻ノ短艇ニテ漂流的ニ航路ヲ求メ幸フシテ一昨
十三日香港ニ着ル旨本日判明致シ長而シテ
因嶋ニ残留セル九名并ニ本船ニ止マル三十餘名ハ
目ニ非常ニ窮況ニ陥リ瀕死ノ状態ニ迫レルコト明
白ニシテ甚多憂慮ニ堪ヘサル次第ニ有之矣聞此際
特別ノ市會議ヲ以テ在香港市市長領事館ニ應
急ノ救助被成下ル様奉懇願ス候也

大正五年十二月十九日

大連市山縣通百五十三号地

大正五年

三月廿三日 郵政第一號 受



内田屋製

電信課長 七五

大臣 次官 七五

一〇〇五 (平) 香港發 大正五年十二月十六日 十七日 前二〇。

本野外務大臣 高橋總領事代理

通商 第三二七號

人事 商船會社汽船開城丸名簿總督府ノ命依

會計 海邦丸乘組負救助ノ為ノ十七日當地發

文書 船名 島 寄航スルコトニ決定セリ尚

參政官 曩、當地、未着セル遭難船員モ右開城丸ニ

乘船出發

依願書

第八類 第八項 第八號 參政官

大正五年十二月廿三日 郵務第二部 接寄

（平）香港發 大正五年十月十六日
本省着 大正五年十月十七日

本野外務大臣

高橋總領事代理

第三二七號

商船會社汽船開城丸名灣總督府ノ命、依
海邦丸乘組負救助ノ為ノ十七日當地發

Prater 島、寄航スルコト、決定セリ尚

曩、當地、未着セル遭難船負モ右開城丸

乘船出發

依頼者

大正五年五月廿三日記録第二部接受

逕信者

受00628號

附錄
公信第一二三號

大正六年一月八日 接受

第一課

大正五年十二月二十七日

在汕頭

領事事務代理 田中莊太郎



外務大臣法典博士子爵本野一朗殿

天城丸、海邦丸遭難者救助
完了件

大正六年一月十日 記第二號

在汕頭日本領事館

蒙：本月十七日海邦丸遭難者救助ノ月
 的ヲ以テ香港ヨリプラタス島方面ニ航行セシ
 大阪商船會社汽船天城丸、本月二十五日
 右方面ヨリ雷港、直航シ來リ左船江河船
 長ヨリ別紙、左、海難報告書及海邦丸遭
 難救助報告及提出信問商信呈技藝
 部、左船長、就テ聽取タハ救助状況、及
 左談話要領書ト一括茲、及所送信問商
 信問相成度此段申進候段果
 左別紙海難報告書完、海邦丸遭
 難者救助報告、左用済、上、逕信者
 一併轉送相煩レ度此段申進候也

文書課長

大正六年一月九日 接受

大正六年一月九日 起草

同 年 一月 九日 附

送第

七

號

大正六年一月十日

主管

主任

別紙

中井道名

信齊者 差官 官位 和局 札 記

流船 可城 九海 難 物 各 其 差 同 行

海部 九遭 難 者 札 即 一 覽 是 物 各 其 差

本件 一覽 一 札 在 汕 頭 領 事 館 領 有 一

外務省

大正六年一月十日 記録第一 部 接受

第 第 第
項 類 門
號 2 第

此 札 一 覽 一 札 在 汕 頭 領 事 館 領 有 一
備 註 一 乃 中 署 行 札 一 覽 一 札 在 汕 頭 領 事 館 領 有 一
此 札 一 覽 一 札 在 汕 頭 領 事 館 領 有 一

大正六年一月十日 汕頭 領事 館 領 有 一
一覽 一 札 在 汕 頭 領 事 館 領 有 一

第14門
第5頁
第2節

大正六年一月十一日

神戸市海軍通商局第一課長

外務省通商局第一課長

勝田商會

廣田弘毅殿

廣田

拝啓時下若御清通奉慶賀小拙者先般中の方際
海邦九アラタス島ニ於テ遭難仕小ニ際シラハ之カ救助方ニ
付多大ノ御恩カヲ蒙リ百方御配慮ヲ煩ヒ小結果幸ニモ
承復、大部分九死ニ一生ヲ得申小段誠ニ御禮ノ申上様
モ無御座小御芳情、程私負咎一因、永々銘肝感佩
措ク新ヲ知ラザル次第ニテ御座小
御蔭ヲ以テ本恒ハ長以下生有者兼他負全部本日シ
以テ無事幸地ニ帰還仕小ニ付乍憚左様而承知成下
石小此ニ謹ニテ御厚禮申上云如所ニ御座小

大正
神戸勝田商會

01154

付 頁添付
回書ニ本書ノ番號ヲ記入セ

大正六年一月十三日接受

第一課

陸

遞信省

管發切第

四號

大正六年一月十二日

遞信省管船局長 若宮貞夫



外務省通高島中村 謹啟

海邦丸坐礁ニ及リ浦書作製

提出ノ件

右件ニ付在吾港口在船領事結了ヲお致送付有之
又海邦丸ハ大連在船ニシテお致ハ関東都府府
海務局ニ送付シ徵心戒書及之存ノ裁決ニ及リ之至
十ニ畫表ト送付有之可致送付申付成之也

大正六年一月十六日記録第二部接受

3-2245

0199

1514
2

文書課長

大正六年一月十三日 接受

77

大正六年一月十三日起草
同 年 舟十五日附

別紙

送第

五號

主任

主管 通商局長

白仁島東部知事

白仁島東部知事 白仁島東部知事 友成

海印丸座破、船主 船主 船主 友成

海印丸座破、船主 船主 船主 友成
大正六年一月十六日記録

外務省

港伝 船中 船主 船主 船主 友成
船中 船主 船主 船主 友成

海印丸座破、船主 船主 船主 友成
付余 何に其 其 其 其 友成

受02223册

第 第 第
項 類 門
號 之 第

附
公信第三七二號

大正六年一月廿四日 接受 第一課

大正五年十二月廿八日

在新嘉坡

領事館事務代理横山敏太郎

外務大臣法学博士齋藤野郎殿

海軍飛行部探査方ニ關スル神戶
勝商會ニ面テ書送付ノ件

本件ニ關シテハ本月十四日在香港高
橋總領事代理經由貴館ノ御指
示ニヨリ詳批民政長官ニ照會ノ上

在新嘉坡日本領事館

其結果在香港高橋總領事經由
信ヲ以テ本日御報告申進メタル由ニ
有之詳細ハ更ニ政廳其他ニ就キ探査
ノ上郵報申進及積ニ有之又本件
ニ關シテハ神戶勝田高倉ヨリ同合セ
ニ接シタル次々有之其ニ付別紙ノ
通函及書及進達及條御査閱ノ上
右同商會ハ廻付方ニ能御取對相
成度此段申進候 敬具

大正五年十二月二十日

在新加坡

帝國領事館

神戸市海岸通三自善邸

勝田商會

御中

海邦北行衛同合七方二第ニ回英之件

本件ニ関シ十二月十二日付ヲ以テ御同合

ニ趣テ兼右ハ大連市勝田汽船会社

新有汽船海邦九ヲ意味スルモノト

在新加坡日本領事館

被思料該ニ付同船ト看做シ茲ニ及

回英也

右海邦九ニ関シテハ外務大臣ヨリ電

報ヲ以テ其筋ヘ向合ノ上回報方

派達アリタル翌十二月十五日付ヲ以

テ岸地政府ニ照會致シ又亦日同

汽船ハ香港沖プラタスリーフ (Ports

Reed)ニ墜礁中ナル旨回英ニ接シ該ニ

付其旨不取敢外務大臣ハ電報

ヲ發シ尚ホ其詳細ハ調査中ニテ判

明次第大臣宛具報ノ積ニハ間右ニ

御了知相成度此段及回英也

大正六年一月廿四日接受

通第一課



公信第三七九號

大正五年十二月二十九日

在新嘉坡

領事館事務代理横山詠太郎

外務大臣法學博士子爵本野一郎殿

海邦丸遭難ニ關スル件

本件ニ關シテハ本月二十八日香港總領事
代理經由折電ヲ以テ申進置候處同
船ハ本邦ヲ發シラングーン及カルカワタハ
向テ途中十一月十日プラタス島附近コレ
大正六年一月廿三日

在新嘉坡日本領事館

及船員ノ大部ハ遭難船トニ留リ十六名
ノ船員ハボートニ乘ジテ十一月廿六日プラタス
島ニ向ヒテ本船ヲ發シ今晨着後本月
十一日迄救助船到来ノ機ヲ俟テ居タルモ
食物缺乏ノ為メ此先時日ヲ經過セバ
餓死スルノ外ナキヲ以テ右十六名ノ内八
名ハ更ニボートニ乘ジテ香港ニ向ヒタルガ
其航程百数十海里ニ涉リ而カモ風波ハ
猶ホ荒クシテ飢渴交々至リ目的地タル
香港ニ達スルコト覺束ナキ状態ニ立テ
至リタルガ澳門ヲ去ル約百哩ノ海上ニ
於テ某函漁船ノ為メニ救助セラレ澳
門ニ着シ今地官憲保護ヲ得テ本月

第 門 第
第 5 類 乙 第
第 填 號

受02224號

此件内書ハ
元來伊ノ船
ヲノ事ナリ
シテ夫レ等
向救助メテ
ハノ事ナリ

在嘉坡日本帝國領事館

下旬香港ニ着シ其筋ニ報告ノ結果
日本政府ニ於テハ大阪商船會社汽船
用煤油ヲ右遣難他ニ派遣シタリトノ
事ニ右之候
右ハ草他各方面ヨリ聞込ヲ綜合シタル
大要ニ及處既ニ存日トナリテハ在香
港領事ヨリ御詳報清ミノコトニ存
及得共前補遺旁右御報告
申進候
敬具

3-2245

0204



受06233號

附屬書類添附

大正六年三月六日 接受
回答書ニハ本書ノ番號ヲ記入セラレタシ

通第一課

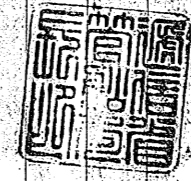


逓信省

管發中第二一二號

大正七年三月五日

逓信省管船局長 若宮貞夫



外務省通商局長 中村魏

海難報告書所送の船送ノ件

別紙の船海難の及基隆の海難報告書送
立書港事子送付の船送付有之在之
東海在船船二付及船送付有之在之
二

大正六年三月 十日 記録第二部 接受

3-2245

0205

文書課長

大正六年三月七日 接受

浄書校正原

大正六年三月五日 起草
同年三月七日 附

通送第

八 號

大正六年三月七日 發送
主任

主管通商局長

中野介 大五

在青港

六子橋 記 中野 代理 氏

海松丸 船 船主 送付 件

本件 船主 書 八 意 之 貴 船 主 五 橋 氏

外務省

大正六年三月

1514
2

信者 一 日 送付 五 橋 氏 船 主 五 橋 氏
要 東 河 五 橋 氏 船 主 五 橋 氏 船 主
方 一 送付 五 橋 氏 船 主 五 橋 氏 船 主
送付 五 橋 氏 船 主 五 橋 氏 船 主

也

文書課長

大正六年三月七日 接受

大正六年 三月 六日 起草

同 年 三月 七日 附

通送第 二 三 號

大正六年三月七日

主任

主管 通商局長

幣 外 務 局 官

白 仁 氏 改 去 者 免

海 船 丸 海 難 始 告 書 送 付 方 件

七日配發第二號

本 件 二 号 三 号 別 件 指 告 書 在 未 港 官 稿

外 務 省

領 事 官 有 未 接 通 信 者 一 送 付 者 同

船 丸 号 东 州 号 籍 一 概 以 以 送 付 者 同

大 号 二 及 送 付 者 同 送 付 者 同

初 也

別 件 指 告 書 二 一 二 号 附 屬 書

中 原 海 行 一

大正六年三月 1514 2